

静岡県立大学短期大学部  
特別研究報告書（平成 19 年度）

## 園芸福祉活動の展開とヒーリングガーデンの効果に関する研究

2008年6月5日

社会福祉学科

講師 松平 千佳

## 1. 園芸福祉活動とは何か

### (1) 園芸と福祉の研究の歴史

まずはじめに、園芸と福祉のかかわりに関する研究をすすめてきたアメリカと日本の関係をとおして、この領域の研究の経過を整理したいと考える。アメリカ園芸学会では1982年に人間と園芸の関係性を研究する部会が誕生し、園芸分野における人間問題という視点での研究が蓄積されていった。この部会が中心となり、「人間の幸福と社会に発展に対する園芸の役割」というテーマで第1回目の国際シンポジウムが1990年に開いた。その後、2004年6月に第8回の国際人間・植物シンポジウムが「花と緑、そして自然の療法的な力」というテーマで兵庫県の淡路島で開かれている。また、第24回の国際園芸学会議（京都）の際開催されたシンポジウムが、「人間生活、文化と環境における園芸」というテーマで行われ、園芸と福祉の関係性について国際的な関心だけでなく、国内の関心も高めるきっかけになった。実際、園芸と人間の福祉に関するアメリカの主だった研究者が、1992年から2004年までに多数、文部科学省招聘客員教授として、あるいは日本学術振興会外国人招聘研究者として日本に招かれており、国内の研究者とともに共同研究を行っているのである。

このように、日本でも園芸と福祉を結びつける研究は1990年代より行われているのだが、残念ながらそれは主に園芸学の領域からのアプローチであり、社会福祉学から園芸を福祉に取り入れた研究は、残念ながらあまり進んでいないというのが現状である。しかし、実際のところ、社会福祉はその発達の歴史において、常に農業や園芸など自然の力を借りながら機能してきたという背景がある。例えば、障害者の授産施設や更正施設などは、野菜作りや米作り、そして花木の栽培や販売を盛んに行ってきたのである。最近では、リハビリの一環として自然の環境を用いて行う高齢者施設や障害者施設もある。そのため、園芸と福祉を結びつけた活動や援助の展開の可能性について、まず社会福祉学からのアプローチも構築していき、東京農業大学や九州大学農学部など農学系からの研究とあわせ、より人間生活のQOLやリハビリなどに貢献できる園芸福祉活動を模索する必要があると考える。<sup>2</sup>

### (2) ヒーリングガーデンとは

ヒーリングガーデン(癒しの庭)とは、ある一定の法則に従い作られた目的を持った庭であり、そのような庭を設置し園芸と人間を結びつけることによって、その庭を訪れる人々をエンパワーする力を持った庭のことである。その設計の法則の一部を紹介すると、一つは、一年中、何がしかの草木を観賞できること。2つめは、どの目線であっても(子どもから

---

<sup>1</sup> アメリカにおける研究の推移や日本との関係については、松尾英輔「社会園芸学のすすめ」農文協、2005を参考にしている。

<sup>2</sup> Lewis A. The Role of Horticulture in Human Well-Being and Social Development, Timber Press,1922)

大人まで、また車椅子に乗っていても)目に入る草木が植えられていること。3つめは、視覚に障害がある人々も楽しめるような草木(たとえばハーブなど)を植えるように、疾病や障害に考慮した作りや仕掛けが庭に存在すること、などである。また、ヒーリングガーデンは、具体的にリハビリテーション、リラクゼーション、教育活動、社会活動、そしてレクリエーション活動が提供できるようにデザインされていることが特徴である。

## 2. 園芸福祉活動の効果

ヒーリングガーデンを使った園芸福祉活動について、その効果をまとめると以下の点があげられると考える。

### ヘルスケアにおいて癒しの庭がもたらす効用

1. 庭は、家庭的な穏やかな環境を提供する。
2. 庭は社会的な支援を増加させる機会を提供する。
3. 地域で暮らす高齢者、子ども、そして家族にとって、それぞれに適した自然な運動を促進する。
4. 庭が個人の選択の幅を広げるため、自己コントロールの気持ちを高めることができる。
5. 自然に親しむという経験は様々な利益をもたらす。庭と親しむこと、園芸活動を行うこと、そして自然と触れ合う経験を提供する。
6. 医学的な治療を受けている人の気持ちをやわらげる。
7. 医学的な治療を受けている人の治療に対する考えや表現力を高めることができる。
8. 援助する側の燃え尽き症候群を予防することができる。
9. 入所者、利用者、そしてスタッフに施設以外の過ごす場を提供することによって、ストレスを軽減することができる。
10. 様々な人々の身体的、社会的、心理的、そして精神的なニーズを満たす。
11. 個人やグループの安心感やプライバシーが守られている感覚を作り出す。
12. 空間の質を高める。
13. 庭が設置される施設や機関の環境を向上させ、よって地域の環境改善につながる。
14. 地域で活動する様々な団体や地域でおこなわれているプログラムに対し公的な支援をおこなうことができる。
15. 庭を利用する人々の自然環境に対する意識を高めることができる。

上記した15項目を見ていくと、園芸をツールに人間の生活を豊かにする方策がさまざまに展開できる可能性を感じることができるのである。

## 3. 園芸福祉活動の可能性

静岡県立大学短期大学部に園芸福祉活動を取り入れることについて研究した内容を報告す

る。

当然のことながら癒しの庭を作る場合は、ユニバーサルデザインに基づき設計される。地域の社会福祉施設や病院利用者の利用を積極的に促す。

庭には、リハビリテーション、リラクゼーション、教育活動、社会活動、およびレクリエーションがおこなえるため建設上の工夫をおこなう。(例、ベンチなどの設置および高さの工夫、空間の設計、日陰などの作り方、食育に関する資材の提供)

庭を使って、リハビリテーション、リラクゼーション、教育活動、社会活動、およびレクリエーションをおこなうための活動を地域やさまざまなグループに提供する。

庭の設計および維持管理には、静岡県内においてすでにユニバーサル園芸に携わっている人々の力を用いる。

庭は本学学生がクライアントのQOLを向上させるため、また療法的な園芸福祉活動を学ぶための実習施設として位置づける。

学生たちにはこの庭を訪れる高齢者や障害者、また児童たちと触れ合いながらそれぞれの専門性を高めるとともに、園芸をツールとして使うことのできる能力を培ってもらおう。

自然と人間の関係、それを使ったサービスの提供、そして地域におけるケア力を高めること、そのために何よりもピラミッド型の組織ではなく、並列で互いが互いの専門性を認め合い協働できるチームアプローチの必要性を、強く実感した。このような視点を取り入れながら、ソーシャルワークやケアワークの新しい展開の方法を今後も研究していきたいと考えている。